

定例市長記者会見録

日 時：2月18日(火) 午後1時30分～2時

場 所：本庁舎6階 特別会議室

出席者：一 宮 市 中野市長、山田副市長

報道機関 中日新聞、毎日新聞、NHK、中部経済新聞、I C C

本日の案件は五つです。

1 番目は「中学校の体育施設にスマートロックを導入します」についてです。

中学校の体育施設にスマートロックを導入します。地域 DX の目玉の一つで、3 月 17 日(月)から市内すべての中学校の体育館と、5 校の武道場にそれぞれスマートロックを設置します。これまでのような管理人との鍵の受け渡しが不要になり、より便利になります。まずは、スポーツ課に登録している団体や、部活動の地域移行の指導者が利用対象です。携帯電話のメールやショートメッセージサービスで受信した暗証番号を入力して解錠してもらいます。2025 年度には、市内の小学校 42 校すべての体育館と中学校の残りの武道場にも導入します。将来的には、テニスコートや公民館の会議室など、市民の皆さまに貸し出す公共施設にもスマートロックを導入したいと考えています。

2 番目は「ファイティングイーグルス名古屋との活動支援協定を締結します」についてです。

プロバスケットボールチームのファイティングイーグルス名古屋と活動支援協定を締結します。締結日は本日 2 月 18 日です。これまでも一宮七夕まつりのイベントや小学生を対象にしたバスケットボール教室の開催など、いろいろな形で地域貢献活動にご協力いただきました。市としてもチームを応援させていただこうと、このたび新たに協定を締結させていただくことになりました。

4 月 12 日(土)・13 日(日)には、いちい信金アリーナ(総合体育館)で「一宮市民デー」として試合を開催していただき、市内在住の小中高生 100 人を先着で無料招待していただきます。また試合当日は、私も出席して活動支援証明書を贈呈する予定です。

3 番目は「2024(令和 6)年度 3 月補正予算(案)に計上された主な事業」についてです。
No. 1「保育園の給食食材費等の高騰に対する支援」

現在、お子さま一人当たり月 5,590 円の給食費をいただいておりますが、600 円分の値下げに相当する金額を支援します。期間は、2024 年 10 月から 2025 年 3 月までで、今年度の下半期分をさかのぼって支援させていただきます。

No. 3「新型コロナワクチン接種による健康被害に対する給付費」

健康被害が認定された 2 件の事案に対する給付費です。

No. 4「財政調整基金積立金」

今回 13 億円を積み立てることで、今年度末の基金の積立額が 74 億 8,000 万円になります。これは新年度に取り崩すことになります。

4 番目は「2025（令和 7）年度 一宮市 予算の概要」についてです。

まずは、予算全体についてです。一般会計 1,443 億 1,000 万円、全会計 2,798 億 9,209 万 2,000 円で、それぞれ過去最大を更新しています。一般会計の歳入については、市税が前年比 7.6%増で、個人市民税や固定資産税などがそれぞれ順調に伸びて、過去最高の税収になっています。歳出については、市民の皆さまにアピールしたい目玉の施策 20 項目を紹介します。

No. 1「地域 DX 推進事業」

大きく四つあります。一つ目は、データ連携基盤の活用で、「健康支援アプリ kencom（ケンコム）」と「138 おやこ手帳アプリ」を連携させることで、幼少期と青年期で切れ目なく健康や医療のデータを保存できるようになります。二つ目は、市内の全小中学校へのスマートロック導入完了です。三つ目は、防災アプリで、新年度に新たに導入します。四つ目は、公共交通で、年齢による割引などいろいろとチャレンジします。便利さを実感していただけることを期待しています。

No. 2「防犯用具購入費補助事業」

「防犯シティ“いちのみや”大作戦」を展開し、防犯用具の購入費用の一部を補助します。補助率は防犯カメラが 4 分の 3、センターサイトが 2 分の 1 で、合わせて上限 1 万円を補助させていただきます。

No. 3「災害備蓄物資充実事業」

災害時の避難所の生活環境の改善で、国の支援を受けながら進めていきます。パーティションや簡易ベッド、携帯トイレなどプライベートに係るものを充実させ、避難所に指定されている市内 61 の小中学校に防災備蓄倉庫を整備していく予算です。

No. 4「ICT を活用した高齢者見守りサービス利用助成事業」

現在は決められた 1 タイプのサービスだけが利用できますが、固定電話回線がないと使えません。今はいろいろな事業者がさまざまな見守りサービスを提供しています。新年度からは、市が定めた条件をクリアしたサービスを利用できるようになり、上限 1 万 5 千円を助成するという枠組みに変更します。

No. 5「子ども医療助成事業」

高校生世代の 18 歳に達する年度末まで、医療費の無償化を行います。10 月から行うことで予算計上しています。

No. 6「第二子保育料減免事業」

愛知県では、これまで 0～2 歳児クラスにかかっていた保育料について、2 人以上いる世帯の 2 人目以降のお子さんの保育料を 10 月から無料にします。県の制度では所得制限により対象にならない世帯もありますが、一宮市は市独自の施策として、双子の場合の 2 人目は

所得制限なしで一律に保育料を無料とさせていただきます。

No. 7「保育所・学校等給食費負担軽減事業」

今年度に引き続き、2025 年度についても月額 600 円の半年分を予算計上しています。小中学校については、1 食あたり小学校で 15 円、中学校で 20 円を支援することで、食材を充実させつつ保護者の負担を軽減する形を取りたいと考えています。

No. 8「新保健所整備事業」

11 月 4 日に開所予定の新しい保健所の整備事業です。現在の建物は、4 年前の中核市への移行で愛知県から保健所の業務を引き継いだ時に、施設をそのままお借りして運営しています。ただ、建物が古く PCR 検査もできない状況ですので、細菌検査室や減圧室などを整備して最先端の機器で健康管理の技術的・専門的な拠点としたいと考えています。

No. 9「いちのみや未来エネルギー(株)の寄附金活用事業」

いちのみや未来エネルギー(株)では、主に環境センターのごみ焼却の余熱を利用して発電し、その電力を市の公共施設に売電するビジネスを行っています。その利益を使って新しい政策を展開していこうというものです。一つはビジネスコンテストで、エコ・脱炭素に関する新ビジネスや新製品の製造などのコンテストの実施です。大学やスタートアップ企業などが市内の企業とコラボして、何かにチャレンジするのであれば、内容によって最高 200 万円の賞金をお渡しします。もう一つは、製造業の小規模企業者の補助です。事業承継については、経済産業省や中小企業庁も支援していますが、それでもまだ手が届かないところをきめ細やかにカバーしたいと考えています。国の支援から漏れるようなところ、特に繊維産業を中心とした地場産業の支援ができるような枠組みを用意させていただきます。

No. 10「いちのみやの魅力発信事業」

一宮七夕まつりと BISHU FES. です。七夕まつりは第 70 回の記念の年です。今年は昭和 100 年にあたるので、昭和レトロで準備を進めています。盆踊りではラウンドアバウトにサブステージを設置してパフォーマンスを充実させたいと思っています。

BISHU FES. は 11 月の開催を予定しています。2023 年度に TGC（東京ガールズコレクション）とのコラボでファッションショーを真清田神社で行いましたが、今回も TGC さんとコラボできることになり、「新規デザイナー発掘プロジェクト」を開催します。

No. 11「道路舗装診断 AI 活用事業」

道路の損傷状況を AI で診断する事業です。道路の不具合を、職員が目で見るとはなく、スマートフォンで取り込んだ画像を基に AI で診断します。こうしたプログラムはいろいろと出ているので、一宮市でも使ってみることにしました。

No. 12「河川等水位情報再構築事業」

現行のシステムは、河川の水位と雨量の観測データをネットで見られますが、新たに道路冠水が見えるようになります。冠水が頻発する箇所に浸水センサーをつけて道路状況を監視します。また、河川状況を見ることができるようライブカメラを設置します。さらに、レイヤ表示で雲の様子もリアルタイムに重ねて表示できる機能を追加します。

No. 13「岩倉街道線道路改築事業」

浅野の交差点の渋滞緩和に向けた事業です。ここは渋滞がよく起きる箇所です、そもそも右折レーンが 15m で約 3 台分しかありません。そこで右折レーンを 12 台分に延伸し渋滞を緩和させます。これから地権者の方との交渉や設計などの検討を始めていきます。

No. 14 「富田山公園再整備事業」

富田山公園は、今年開通予定の新濃尾大橋（仮称）のすぐ近くにあります。かつて尾西市民プールがあったエリアで、現在は少し寂しい感じがしますので、民間事業者の力も活用して新しく整備に着手するものです。

No. 15 「大野極楽寺公園整備事業」

大野極楽寺公園にキャンプサイトを新しく整備します。併せて老朽化して使えなくなっている大きな滑り台を更新することで、公園の魅力アップにつなげたいと考えています。

No. 16 「スマート IC 設置検討・区画整理促進事業」

まちづくり基本構想(案)の実現に向けた事業です。スマート IC の実現に合わせて、物流施設や観光農園・観光交流施設を作りたいということで、地元と調整を始めています。地権者の皆さまによる発起人会を今年設立する予定で、ここが中核になって区画整理事業が進んでいくと期待しています。

No. 17 「消防緊急通信指令システム更新事業」

119 番通報システムをバージョンアップします。実際には 2025 年度にシステムを構築して、運用は 2026 年度からになります。市民の方が火事を発見したり、病気になったりした時に映像で通報できます。また、職員間でもいろいろな画像や動画データをやり取りすることで、より有効な現場活動が可能になることを期待しています。

No. 18 「市民会館バリアフリー関連改修事業」

市民会館の改修事業です。座席や天井部分の予算は 2024 年度に措置済みですが、2025 年度は事業費では 1 億円ほどを用意してバリアフリーを徹底させたいと考えています。車椅子の方や障害をお持ちの方、また赤ちゃん連れの方にも対応できるように、動線の確保や多目的ルームの設置などに取り組みます。

No. 19 「屋内運動場空調整備事業（中学校）」

中学校の体育館のエアコン整備に着手します。一斉に整備するのは難しいので、2025 年度は北部中・奥中・尾西第一中のエアコン設置工事と、千秋中学校の体育館建て替えに向けた設計委託を実施します。見立てでは全中学校の体育館の約 3 分の 1 以上は建て替えないとエアコンを設置しても空調が効かないこともあり、時間はかかりますが整備を進めていきます。

No. 20 「市川房枝記念事業」

今年は女性参政権の実現 80 周年で、その功績の第一人者である市川房枝さんをしのび、シンポジウムや特別展を開催する予算を計上しています。

以上が令和 7 年度の予算案の紹介です。

最後に「3 月市議会定例会単行議案」について、一つだけご紹介します。

「議案第 18 号 一宮市職員等のハラスメント防止に関する条例の制定について」

ハラスメント防止条例を一宮市もつくります。県内では津島市さんなど他市でも取り組んでいますので、同じような内容になりますが、一宮市でもできるだけいろいろなところでいろいろな声を上げやすくする、そしてみんなで話し合う、みんなで考える、そうした場を用意していきたいと考え、条例制定を提案させていただきました。

以上、私からの説明とさせていただきます。

質疑応答

(記者) 新年度予算の最大の目玉は何ですか？

(市長) 強いて言えば No.9「いちのみや未来エネルギー(株)の寄附金活用事業」のビジネスコンテストです。提案していただくビジネスプランには、市内の企業とコラボするという条件を設け、有識者の皆さんにプランを審査していただくものです。面白そう・応援しようというプランがたくさん出ることを期待しています。

現在、ステーション AI (愛知県のスタートアップ支援施設) に市職員を派遣していますが、そこで一宮市の存在感を発揮するには、何かきっかけがいて考えています。各企業がいろいろなチャレンジをする中で、実証実験のフィールドとして一宮市を選ぶきっかけになることを期待しています。また、ステーション AI に限らず、スタートアップとしてチャレンジをする事業者さんとしては、どこかで試したいという思いがあると思います。机上の空論だけで終わらせないために、何か試したい時に一宮市が受け皿になれる用意をしておきたいと考えています。

(記者) ビジネスコンテストの実施時期はいつ頃ですか？

(職員) 今秋の実施を予定しています。

(記者) いちのみや未来エネルギー(株)の売上額は、いくらですか？

(職員) 2023 年 5 月 1 日～2024 年 4 月 30 日の 1 年間で、約 4 億 1 千万円です。

(記者) 新年度予算について、全体的なコンセプトや位置付けのようなものはありますか？

(市長) 「一宮市再生」です。み年はヘビが脱皮することから変化や成長の年とも言われていますが、同じように一宮市もコロナ禍を経て新しく生まれ変わっていきます。特にインフラ整備では、新濃尾大橋(仮称)も夏までには開通し、スマートインターチェンジの整備や名岐道路の高速化などの検討が本格化します。おかげさまで企業進出により税収も明るい兆しが出ていますので、そうした財源を使って高校生の通院医療費の無償化や屋内運動場へのエアコン整備などでもできるようになります。合わせて DX で一宮市ならではの進取の精神を発揮して行けたらとの思いで今回の予算編成に臨みました。

(記者) 防災アプリの導入時期はいつ頃ですか？

(市長) 今年の秋頃です。

(記者) 防災アプリの導入を目指すきっかけや経緯は？

(市長) やはり市民意識の高まりです。東日本大震災や熊本地震があり、昨年の能登半島地震では地理的な近さもあって、市民の皆さまがより自分事として考える気運が高まってきたと感じます。そうしたことから防災アプリを受け入れていただきやすいと考えて、次はこの分野でDXを進めるため予算を計上しています。

(記者) BISHU FES. では、一昨年のようなファッションショーと同時に、新規デザイナーの発掘プロジェクトを別でやるのですか？

(市長) 一昨年のようなTGCさんのファッションショーとは違ったものです。TGCさんと準備しているのは、新規デザイナー発掘プロジェクトです。ファッションデザイナーを目指す学生さんや企業で働く見習いのデザイナーさんなどから地元の尾州生地を使った作品を公募するコンテスト企画をやろうと考えています。